

ファイナルライブを明日に控え、最後の確認を…と思った矢先、「吹いても音が出ない」との声が。出鼻をくじかれた影響か、1月の練習で決めたことや確認したことが頭から抜け落ちていた姿が見受けられ、少し心配になりました。そんな中、同じくライブを明日に控え、札幌芸術の森で練習をしていた倶知安の「Mt. ようてい・ジュニア・ジャズワークショップ」からお互いの演奏を発表し合おうと提案があり、一足早く発表会が開催されました。しかし、自分達より人数も多く、迫力のある倶知安の演奏を耳にしたメンバーは自信喪失ぎみに。すると小野先生から「よそはよそ、ウチはウチ」「自分たちがやってみて楽しければ、それでいいじゃん」と励ましの言葉がありました。自身を取り戻したメンバーは練習を再開。曲の完成度もあつという間に高くなり、明日の準備は万全です。

2014.2.22 13:30~16:30

第10回 広尾ジュニア・ジャズ・ワークショップ
札幌芸術の森 練習室



いよいよファイナルライブ当日。メンバーは午前中リハーサルのため、早めの朝を迎えました。リハーサルを終えて戻ってきた控室のテーブルには、昼食のお弁当と差し入れが。「芸能人みたい！」と声があつたのにも納得です。昼食後、衣装に着替えたメンバーは小野先生と最終ミーティング。カメラの前で笑顔を見せるメンバーの頭の中に、「緊張」の2文字はなさそうです。

2014.2.23 13:00~

札幌・ジュニア・ジャズスクール ファイナルライブ(開演前)
札幌市教育文化会館 控室





ついに始まった本番のステージ。小野先生も舞台袖からキーボードでサポートしつつ、メンバーの演奏を見守ります。学校の体育館の2倍はあるかという大きな会場とたくさんのお客さんを前にしながらも、メンバーはおじけづくことなく、体を左右に動かし、リズムに乗りながら楽しそうに演奏していました。その姿を見て、見ている方も思わず笑みがこぼれてしまいました。ステージの前に出て演奏するアドリブソロも堂々としており、人前で演奏するのを恥ずかしがった最初の頃とは見違える成長ぶりを見せてくれました。最後はステージを端から端まで駆け回り、笑顔でフィニッシュ。大舞台を終えたメンバーに、客席から盛大な拍手が送られました。ライブ終了後、カメラに見せた子ども達の笑顔からは、達成感と「楽しかった！」という想いがあふれていました。

2014.2.23 14:45~

札幌・ジュニア・ジャズスクール ファイナルライブ

札幌市教育文化会館 大ホール

